

☎テレビホン法話(0577)(34)2313

○8月21日〜31日:長尾惇也氏「法正寺」

○9月1日〜10日:三木孝樹氏「浄福寺」

○9月11日〜20日:三島見らん氏「西念寺」

宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

このままでいいのか、今の世・この私

雑行を棄てて本願に帰す

高山教区高山別院 御遠忌テーマ

2019年5月、高山教区・高山別院は「雑行を棄てて本願に帰す ―このままでいいのか、今の世・この私―」の教区テーマのもと、宗祖親鸞聖人750回御遠忌法要を厳修いたします。

思い起こせば、真宗本廟(東本願寺)で宗祖の御遠忌法要が勤まったのは、東日本大震災から間もない、2011年の春でした。津波や原発事故による被害は、私たちの日常を大きく変えました。追い求めてきた豊かさは何を犠牲にして成り立っていたのかが、また真宗門徒はどのように生きるのかが、改めて問われました。

法要延期の声も上がるなか、真宗大谷派は、「すべての生きとし生けるものに通じる、歴史を貫く深い願い」を「いのち」と表現し、御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」を発信し続けました。震災の犠牲者・被災者に想いを寄せた法要日程は、私たちが「共なるいのち」をいただいていると確認しあう法座にもなりました。

あれから数年。経済成長が右肩上がりの時代は終わりへと向かい、今では貧困という文字を頻繁に目にします。未来への不安、格差による孤立は、他者の言葉に傾ける耳を塞ぎ、共感する心を閉ざしてしまいます。より強く、より賢くなることが、自分を守る術(すべ)のようにさえ感じます。今、震災の時に感じた「共なるいのち」が忘れ去られようとしています。その中で、今まで伝えられてきた大切な事柄を次世代へと継承するということが困難になってきています。

そのような状況下だからこそ、私たちは『教行信証』

御遠忌推進委員会では、2019年の宗祖親鸞聖人750回御遠忌をお迎えするにあたり、あらたにテーマ趣旨文を作成しました。このテーマ・趣旨を皆で共有し御遠忌に向かってまいりたいと思います。

に記された宗祖の言葉を教区テーマとして掲げ、御遠忌法要をお迎えしたいと思います。

「雑行を棄てて本願に帰す」とは、聖人29歳、よき人法然上人の伝えてくださった本願念仏の教えに会い、いずれの行も及びがたき身である自分が、すでに阿弥陀如来から願われていたことへの驚きと喜びの言葉です。

南無阿弥陀仏をこの世の灯として掲げ、いのち終わるまで煩惱の身を尽くしていく。宗祖が生涯聞法されたように、真宗門徒とは「このままでいいのか、今の世・この私」と、仏法に私を聞き続けていく存在にほかなりません。それはまた、濁世のなかで「共なるいのち」を見出す眼や耳を、ひいては人間を回復していくことでもあります。

宗祖は晩年、真宗門徒としての人生を「如来大悲の恩徳は〜」の和讃(恩徳讃)にうたいあげました。「身を粉にしても報ぜずにはいられない」「骨を砕けても謝せずにはいられない」。自他ともに傷つけあうような生き方しかできないにも関わらず、私が私としてここにある意義を浄土真宗から賜った、その喜びが伝わってきます。

宗祖の言葉によって「共なるいのち」に目覚めた、私たちの先達も同じです。だからこそ、750年という時を超えて「恩徳讃」は親から子へとうたい継がれ、毎年の報恩講も絶えることなく続けられてきました。その懺悔と讃嘆の歴史のなかに、2019年にお迎えする宗祖の御遠忌法要はあります。

「雑行を棄てて本願に帰す」。宗祖や先達が歩まれた念仏一つの道を、私もまた一人の真宗門徒として歩みたいと思います。



発行 真宗大谷派 高山教務所
 発行者 出雲路 善公
 〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
 ☎(0577)32-0776
 *毎月20日発行 50,000部
 三市一郡無料配布
 印刷 山都印刷株式会社

飛驒御坊御遠忌2019
 二〇一九年平成三十一年五月十日より十二日まで

飛驒御坊 御遠忌通信 ④

木工事は、母屋受け工事から始まりました。屋根コンクリート面にはどうしても凹凸があり、これを解消し屋根面の高さレベルを調整しながらの母屋受け工事となりました。その上に母屋、そして垂木が敷設され、さらに微調整を重ねながら屋根面の平面化の精度を高めていく作業が行われました。屋根先端部分の作業も終了し、現在、野地板の敷設や向拝の作業が進められており、今後銅板葺き工事が始まります。屋根の工事は10月末までに終了する予定で、順調に進められております。



横向の木材が母屋



野地板

問 真宗では母屋の時「冥福を祈る」と「冥福を祈る」の区別がどうあるのか？

答 一般的には「冥福をお祈りします」という表現をよく聞きます。もう決まり文句のようになっていて、意味もわからず使っている方も多いようです。「冥」という字は「暗い・光がない」という意味で、「冥土」とは、「死者の魂が行く暗黒の世界」なのだそうです。つまり「冥福を祈る」を直訳すると「暗黒の世界で幸せに」ということになります。亡くなった方の幸せを願うということは、心を交わした人ならば当然の願いなのかも知れません。しかし私たちが、「冥福を祈る」という言葉を使ってしまうことで、無意識に故人を光の届かない暗い場所に閉じ込めてしまっていることに気付く

べきです。そして、故人の幸せとは一体何なのか、何をもちて幸せだと言えるのかということについて、もっと心を馳せて考えさせてもらうことが大切ではないでしょうか。

親鸞聖人のお言葉には、(前略)法身の光輪きはもなく 世の盲冥を照らすなりとあります。「仏のはたらきは際限なく、迷いの私たちに、冥(やみ)の中のことを知らしめる光のようだ」という意味です。私たちは、自分は迷っていない、言い換えれば光の中にいると思ひ込んでいます。だから、亡くなった人は光の反対・闇の世界へ行くのだと考えてしまうのでしょうか。

故人は、暗黒の世界へ行ったのではありません。光(仏)と成って、私の闇を照らしてくださいののです。ここ(私)にはたらく続ける仏(光)と成るのです。

故人の願いに促され我が身を振り返り、手の合わされる生き方を私がしていくこと、それが「故人の幸せ」を願う歩みとなっていくのではないのでしょうか。

私を照らす

ひかりの言葉 ⑮

酒井 義一

ドキリとしたこと

今年八十一歳になる母と同居を... 忘れがなくなってきました。かかっ...

「東本願寺から電話があったわよ」と母。「東本願寺の誰？」と私。「そ...

こちらに余裕がある時はいいので... すが、忙しい時などはついイライラ...

そんなある日、弟が泊りがけで... やつてきました。夜一緒にお酒を飲...

人は老いるもの。その老いのすが... たを母はきちんと私に見せてくれ...

それから心を入れ替えて、な... るべく母との対話を大事にしよう...

初めて知った母の戦争体験

ある日、母がもう一度訪れて

みたい場所があるといい出しまし... た。それは戦争中の疎開先でした。

訪問先は富山県高岡市伏木。こ... こに母の叔母が嫁いだ家があり、

戦争中に疎開をしていたのでした... その地で九十歳になるご婦人と、

およそ七十年振りの再会もありま... した。出会えたことを喜び、一緒...

に遊んだこと、海に泳ぎに行つたこ... となどを楽しそうに語る母がいま...

その日の夜、戦争中の話をして... くれました。それは今までに聞いた...

それが、邪魔者扱いされたこと... 食事を家族と離れた土間で食べて...

が八十八歳の時に書かれたお手紙... です。その時代背景には、天変地...

異や飢饉などによって多くの人々が... 次々と亡くなられる厳しい現実が...

あつたようです。それに直面した親鸞さまは、... 五〇年以上前にお聞きした法然さ...

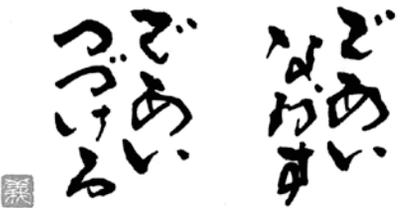
まの言葉、すなわち「愚者になりて... 往生す」という言葉を思い返し、出...

会い直そうとしておられます。そこ... らそれで終わり、さあ次の言葉へ」...

自分が出会えた言葉を自らの歩み... の中で抱き続け、人間が亡くなって...

いく世の現実に直面しながら、言... 葉を大切に憶念する親鸞さまです。

ここに、言葉に出会い直し、言葉... に出会い続けていく親鸞さまがお...



森

次回は藤場芳子さんの「女と... 男のナムアミダブツ⑮」です。

【8月】

21日(日) 瓜栗同行[国府町]

寶林寺[宮川町]

福寄同行[清見町]

了因寺[清見町]

栖谷寺[清見町]

齊入寺[白川村]

22日(月) 敬勝寺[白川村]

24日(水) 誓願寺[片野町]

25日(木) 明善寺[白川村]

27日(土) 西蓮寺[下切町]

蓮徳寺[清見町]

弘誓寺[清見町]

了徳寺[清見町]

長圓寺[朝日町]

圓城寺[朝日町]

28日(日) 専念寺[鉄砲町]

一念寺[清見町]

満成寺[清見町]

寶蓮寺[朝日町]

30日(火) 寶藏寺[莊川町]

【9月】

1日(木) 西正寺[清見町]

2日(金) 長林寺[清見町]

3日(土) 聖圓寺[宮川町]

4日(日) 南春寺[国府町]

浄慶寺[古川町]

浄永寺[古川町]

願徳寺[河合町]

5日(月) 了心寺[山口町]

誓願寺[古川町]

6日(火) 蓮勝寺[莊川町]

10日(土) 遊浄寺[莊川町]

12日(月) 不遠寺[総和町]

18日(日) 西念寺[国府町]

恵林寺[清見町]

8月22日(月)

午後1時半から

講師 安藤 弥 氏

(岡崎教区浄専寺)

テーマ 報恩講について

児童夏のつどいin明善寺

であった! たべた! あそんだ! 白川郷のあつい夏!

毎年たくさんの参加をいただいている「児童夏のつどい」。今年白川村...

よく晴れ、暑さの厳しい二日間でしたが、熱中症などの事故もなく、無事...

★子どもたちの感想★

- お経をよむのははじめてだったけど、なれてきてよめるようになりました。 私たちが命を食べて生きていることをあらためて知り、しっかり感謝したい... 班の人となかよくなれてまた来年会えるのを楽しみにしています。...



Table with 2 columns: Date/Event and Location. Includes dates from 21st to 30th and various temples.

秋の彼岸会・永代経法要 9月19日(月)~25日(日) 午後1時から 勤行・法話

チエルノブイリ30年写真展 現在、高山別院本堂と寺宝館において写真展を開催中です。